

新 ブドウ園土壤における可給態窒素診断基準の作成(R2~4)(成長戦略研究)

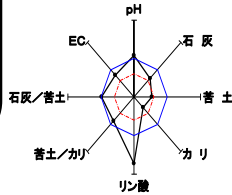
新 1 ブドウ園土壤における可給態窒素含量の実態把握(R2~4)

新 2 施肥資材の土壤種類別可給態窒素発現量の解明(R2~4)

背景とねらい

ブドウ園土壤の、カリやリン酸などの養分は、土壤診断で確認できるけど、生育や果実品質に重要な可給態窒素の状態はどうなっているの？

可給態窒素は、診断基準がないので、施肥はどうすればいいの？



窒素の診断基準はない

他県では、ナシやクリ等の果樹園で窒素過剰が原因と思われる枯死等の生育障害も見られています。

これまで可給態窒素の分析は長期間(4週間)を要しましたが、1日で分析できる簡易的な方法が開発され、土壤診断に活用できるようになりました。



県内のブドウ園土壤で可給態窒素含量や生育を調査して診断基準を作成する。

併せて、適正な窒素量の投入にあたり、施肥資材からの可給態窒素の発現量を明らかにし、ブドウの高品質・安定生産に向けた施肥技術の確立を目指す。

試験内容

1. ブドウ園土壤における可給態窒素含量の実態把握(R2~4)

シャインマスカット、巨峰

砂質土、埴質土、火山灰土

土壤分析(可給態窒素、カリ、リン酸等)
生育調査、果実品質調査

土壤の種類ごとに可給態窒素量の診断基準を作成

2. 施肥資材の土壤種類別可給態窒素発現量の解明(R2~4)

供試資材: 牛ふん、鶏ふん、配合肥料
土壤種類: 砂質土、埴質土、火山灰土(コンクリート枠施設試験)
調査項目: 可給態窒素の年間発現量、推移(年次反復)

土壤の種類による施肥資材の可給態窒素の発現量を明らかにする。

※ブドウ主要品種における施肥体系の改善については、R5年度以降に課題化予定

期待される効果

- ブドウ園土壤における可給態窒素の実態を把握し、診断基準を作成することで適正施肥の基礎資料となる。
- 施肥資材の可給態窒素発現量が明らかになることで、施肥量の目安がわかり、効果的な施肥が行える。このことから、資材コストの低減や環境負荷低減効果が期待できる。